

【2】見守りネットワークの構築

見守り体制づくり (小浜市)

基礎情報

実施地域	小浜市全域
実施主体	小浜市
所在地	小浜市大手町6番3号
代表者	小浜市長 松崎 晃治

活動を始めたきっかけ

ひとり暮らし高齢者については、民生委員が1カ月に1回程度訪問し安否確認を行っているが、高齢者世帯や要援護者、日中ひとりになる高齢者については訪問がない。
民生委員だけで見守り活動を行うには限界があるため、地域の人たちの協力のもと、地域全体で高齢者を見守る体制づくりが必要である。

見守り活動の担い手

区長、民生委員、ひとり暮らし老人相談員
老人クラブ会員、ふれあいサロンリーダー
など

見守り対象者

ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、認知症高齢者
障害者、日中ひとりになる高齢者

活動概要

(平成23年度の取り組み)

平成24年3月に住民の意識啓発促す講演会を開催

内容：区長、民生委員、老人クラブ会長などを集め、災害時には地域での支え合い・助け合いが大切であり、地域見守りネットワークの構築が必要なことを知らせた。

平成23年度、自主防災組織結成にあたり見守りネットワークづくりを依頼。

見守りネットワーク参加者5団体に対して、防犯ブザー、事務用品の配布を実施。

(平成24年度の取り組み)

公民館に対して高齢者の居場所づくりおよび見守り体制づくりの協力づくりの協力を依頼。

内容：見守り対象者となる高齢者が、自ら「ふれあいサロン」や「老人会の会合」等に参加し、定期的に集うことでお互いに見守り合える体制をつくる。集まりに参加していない高齢者の家を、老人会の会員や民生委員、サロンリーダーと一緒にまわり、安否確認を行うと共に、災害時に必要な支援について把握する。

見守りが必要な人の把握方法

ふれあいサロンなどの集まりに参加していない会員を把握し、解散後、民生委員やサロンリーダーと共に近所の高齢者が訪問し、支援が必要な人の情報把握を行う。

活動の成果・異変発見事例

会員同士で声かけをすることにより高齢者にも見守りの意識がうまれた。

工夫した点

地区内の老人会の会員同士での気軽な声かけにより、民生委員では把握できない細かな内容が把握出来る。

事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で防犯ベル、事務ファイルを購入。
24年以降は、市の一般財源。

課題

老人会や婦人会など各種団体の長が公民館に集まる機会に、身守りネットワークづくりの話し合いを持ってもらうよう公民館長にお願いをしたが、具体的な介入をしていなかったため、実際のネットワーク結成にはいたらなかった。
今後働きかけが必要。

今後の目標

- ・区長、民生委員、サロンリーダーを中心とし区民全体で見守り体制づくりを行う。
- ・公民館単位やサロン開催単位で説明会や検討会を開催し見守り体制づくりを行う。
- ・23年度に身守りネットワークが結成された5団体の活動を向上させる。